

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あそうだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5-41		
自己評価作成日	令和7年3月18日	評価結果市町村受理日	令和7年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html">https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年4月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

たとえ認知症があってもその人らしい生活ができるよう、その方の生活ペースを考えたケアや環境作りにも努めています。定期カンファレンスを通じて、入居者様の身体情報や認知面での症状等を共有し、ケア方針や方向性を統一し、ご本人が戸惑う事が無いように整備しています。事故防止・感染防止に努め、安全で安心できる環境を提供し、楽しく笑顔で生活できる施設を目標としています。ご家族に対しては、出来るだけ安心して頂けるよう、毎月の援助報告書を、担当者・ケアマネの二人体制で作成郵送しています。今年度から「運営推進会議」も定期開催し、地域代表の方や入居者ご家族も必ずご出席いただき、顔馴染みの関係性がより深くなったと感じています。7年5月GHあそうだⅡが開設できた事で、イベント等合同で開催し、より楽しい時間を提供出来ました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度は隣接に“グループホームあそうだⅡ”の開設や法人全体でコンプライアンスと質の向上を目指し、達成可能な目標を実感すべく奮闘している。認知症があってもその人らしい生活や地域で生きてきた入居者の生活を継続させ(カラオケサークルへの参加やカラオケ大会への参加等)、家族への個別援助報告書や職員によるコメントが日々の様子がよく分かること好評を得ている。法人全体での研修やリモートでのホーム内研修とともに、新たに開設した隣接のホームと意見を交わす等ケアサービスの向上に邁進している。入居者の中には男性職員とオセロでの対戦や歌って過す環境にあり、住み替えが進み現在はADLも良く、明るい雰囲気醸成している。県外に帰省したいとする希望にはADLの低下防止に努める等入居者の希望を叶える努力を惜しまないホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念及び行動指針は事務所の壁に提示し、いつでも確認できるようにしている。又、行動指針は申し送りや所内研修の折に唱和している。	法人の掲げる愛誠会建学の精神である「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心」及び行動指針を掲示し、唱和により意識付けとしている。今年度は法人全体で研修計画を立て、コンプライアンスと質の向上を目指した1年である。隣接に医療ニーズに応えるホームとして“あそうだⅡ”がオープンして移動された入居者等もあり、住み替えが進む等過度期にあり、達成可能な目標が実感できるとして捉え、行動指針や目標が飾りにならないようにと出来る所から取り組むことを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	身体機能の低下が進む中で、以前より散歩や近隣のスーパーへ買い物同行が減少している。	地職員体制により個別の外出等地域との関わりは出来ていない。隣接の新たなグループホームとの合同レクリエーションとして交流会が行われている。地域から七夕の竹が提供される等これまでの関わりが表われている。	運営推進会議の中で、民生委員が興味を持ち見学したいとの申し入れもあり、施設見学の受け入れ等地域から興味を持ってもらえたことは成果であり、7年度は地域との交流や地域での生活拡充に期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者でなくても、見学希望を含めて、受け入れている。又、飛び込みで相談を受ける場合があり、必要時には、ささえりあへ報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	人数制限なく希望者は毎回出席されている。欠席される方も意見が言える仕組みにしており、議事録は郵送している。欠席された方も、施設玄関に設置した議事録を閲覧できるようにしている。	運営推進会議は、自治会長・地域包括支援センター・民生委員(会長と地区の委員)と全家族に参加の可や意見を前もって把握している。参加者からの質問や意見に応じている。運営推進会議の中で、参加者が興味を持ってくださり見学したいとの申し入れも出ており、施設見学の受け入れなど地域から興味も持ってもらったことはこの会議の成果である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3番と重複するが、飛び込みで相談を受け、要支援1の方であった為、ささえりあへ報告。運営推進会議に欠席の場合でも、ささえりあ・地域代表の方には議事録を郵送し、報告している。	市役所に勤務態勢を相談し助言を受けたり、通りすがりに立ち寄る住民の相談に対応し必要な事案は地域包括支援センターへ報告したり、地域包括支援センターからの入居相談が入居に至ったケースや社協の紹介によるボランティアの訪問等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束について、定期的に研修の機会あり。研修会欠席でも、申し送りノートにて確認できるようにしている。	身体拘束適の正化委員会として法人の拠点での集合研修の開催し、ホームではカンファレンスで伝達している。7年度からはウェブ研修で行うとして各自が学びを深めるよう変更する予定である。もともと拘束は行わない事を旨として外出傾向には一緒に出かけ、ベッド柵等せざるを得ない3原則を説明している。転倒防止として夜間のポータブルトイレへの移乗用に足元センサーを使用しているが、行動制限をするものでは無い事を家族に説明し了承のもと使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内で開催される定期的研修会において、虐待について学ぶ機会を設けている。カンファレンスでは受講者より伝達研修の機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修会・カンファレンス等で研修やミーティングを行い、「人権擁護」「尊厳」等への関心を深め、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、先に重要事項に関わる内容を分かりやすく説明している。改定時には「変更合意書」を発行し家族へ郵送、書面にて同意を得る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙や意見箱を玄関に設置。面会時には、ご家族と話をする時間を持ち、頂いたご意見は周知するようにしている。	今年度は新たに開設したあそだⅡと合同での交流会を開催している。また、家族の訪問時に意見や要望を収集するとともに、玄関に配置する意見箱の横にアンケート用紙を設置している。運営推進会議には出席が出来ないがフィードバックして欲しいとの意見を受け、玄関で議事録を開示していることを家族に説明する等家族の意見を大切にしている。更に、家族に援助報告書として食事量から健康状態、特記事項として入居者同士の会話等普段の様子を期して発信し不安払拭に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、法人理事長・管轄の施設長・各事業所の管理者・職員参加の会議開催。意見交換を行っている。昨年末には法人からの運営方針説明会がなされた。	毎月拠点の代表と管理者等による会議を開催し、議事録を回覧し全職員が共有している。また、不祥事には各拠点及びリモートによりコンサルタントによるアドバイス等全職員に周知を図っている。カンファレンスでの職員との意見交換を行い重要な事案は法人に具申する体制としている。定期カンファレンス前に事前アンケートにより職員に課題を上げて話し合いを行っている。夜間帯の応援態勢についての検討やグループラインによる相談の報告等職員が意見や提案を出す機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考査システムがあり、代表者は個々の能力を把握する機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者となる事へ消極的な職員が多い。処遇と責務とのバランス等、法人として改善しないと解決しない点は、会議等で実態を上申している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回の合同研修会、「仲間作り活動」と称して職員の仲間作りを奨励している。今年度は1/年の職員旅行(日帰り・泊・海外)や新年会の実施。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学では時間制限等せず、納得いくまで質問を受け、丁寧に説明し、安心して頂けるよう努めている。例えば、、、と例題を出して具体的に理解しやすいようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	就業されているご家族も多い為、相談業務に関わるケアマネ・管理者は土・日を出勤し、又19時以降の電話相談も受ける事が出来るよう出勤時間を調整している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	たとえ、当事業所への入所相談であっても、他のサービス(小規模多機能・介護付き有料老人ホーム・医療ニーズへの十分な対応等)が妥当と思われた時には、当該事業所の紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設はご本人の「生活の場」である事を認識して、その生活の場にお邪魔してサービス提供する事を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本情報や家族との関係性・家族間での介護の負担を理解共感し、ねぎらいの気持ちをもって対応している。又、家族しかできない支援・施設でもできる支援等密に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外泊等の制限はない為、馴染みの人との関係性は保持できていると判断している。ご家族の協力の元、在宅から利用していたカラオケサークルや歌大会等参加が継続出来ている。	家族の訪問も多く、家族には運営推進会議の中で高齢化する事を踏まえ家族と正月を過ぎて欲しいと投げかけている。入居しても地域と繋がりを絶やさず個人タクシーと契約しカラオケサークルに継続的に出かける入居者や家族の訪問時に一緒に散歩として出かける入居者等これまでの関係性が途切れないよう家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染み関係の深さや身体レベル等考慮して、リビング・食堂の席は決定している。強い難聴やマイペースの方もいるが、リビングやレクの時間等孤立しないよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への移動が多い。退居後1ヶ月以内には、ご家族へ電話して、様子を伺い健康を願い、又ご家族への労いの言葉かけを行う。隣接するあそだⅡは重症化した場合の役割を持ち、移動できるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケア・ユマニテュードの考え方とその姿勢で対応し、その方の思いを大切にしている。	職員は入居者に寄り添い、思い等を引き出している。入居者個々に合わせたアプローチなどその方に特化したケアの成功事例を全職員が共有している。入居者の言葉の裏にある真意を見極め、「手伝って欲しい」の言葉から動き出す等その方の方針で生きてこられたと捉え、スタンスも変わらないと認識してケアに徹するとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントが全てではない事は承知しているので、追加情報や更に詳しい情報等判明した時点で更新している。定期カンファレンスでの情報交換・情報提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、グループラインを活用したタイムリーな情報共有を実施。スタッフには受け持ちの入居者を決めて、気付きを深めるようシステム化している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や認定更新・プラン更新時等本人や家族共に話し合いを実施、計画に反映できるよう努めている。	入居者本人との話や職員の意見を受けてモニタリングを行い、担当者会議ではケアマネジャーと家族と会うことが少なく、担当職員が家族に説明し同意を得ている。介護保険の更新による見直しや心身の状態変化による見直し等現状に即したプランとなっている。転倒無く過したいとのニーズに応じたプランや役割ある生活や趣味の継続として歌の会への参加やカラオケやレク活動への参加等をプランに組み入れる等個別のニーズに基づいたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は、SOAP方式で記録・年度途中でデジタル化・IT化となった。どのような形式でも介護のプロセスが可視化できるよう、記録に残す事を目標にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の買い物を同行したり、栄養補助食品の注文と保管管理等柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策を十分に行った上で、公民館活動への参加もできるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時にはご家族の代理として受診付き添いを行っている。必要な日々のデータや主治医への質問等は書面で提出。生活や療養のアドバイスを受けている。個別の訪問診療も受け入れている。	医療支援については、本人・家族の意向に沿った在宅時からのかかりつけ医の継続した受診(家族の支援)や、定期通院が難しい入居者は在宅時からの訪問診療が行われている。職員は日々のバイタルチェックや関わりから異変を見極め、急な熱発等状態変化には職員が対応する等適切な医療を支援している。歯科も家族と個別に相談し、これまでの主治医による訪問診療やホームが契約している歯科からの訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化は看護師へ直接書面等で報告する。緊急時は電話やグループラインを活用		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネ・施設看護師が中心となってサマリーを作成し、提出。又医療関係者との情報交換も担当する。退院時には医療機関へ出向き、担当医やりハ担当者から情報提供を受けたり、助言を受け。その関係性を維持している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所は「看取りケア」のシステムを実施していない。隣接するあそだⅡが受け皿的役割をもっている事を家族へ説明している。介護が出来ていない。これまで、4名の方が希望で移動された。	ホームでは看取りまでの支援は行わないことを家族に説明し、看取りへの希望には新設した隣接のグループホームあそだⅡへの住み替えで支援している。しかし、昨年には自宅での看取りを希望された家族の思いに寄り添い、最期を家族と迎えられたケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変時のマニュアルを活用して、緊急時の対応に抜かりないように、定期カンファレンスを活用して、研修会等実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消防訓練は、日中想定・夜間想定のパターンで訓練を実施。	昼・夜を想定した年2回の防災訓練では防火管理者を管理者として通報・初期消火・避難誘導などを各職員が受け持ち実施している。また、防災業者による設備点検を行っている。自然災害については法人で作成したBCPをもとに研修を行い、ホーム内でも周知徹底する意向である。備蓄は、水やアルファ米等3日分を備え、期限切りが発生しないように定期点検を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	面会簿を改善し個人情報が漏れないような書式とした。本人不在時の居室への入室時には目的を本人へ伝え、了解を得る。ノックや声掛けは実践できている	理念や法人のスローガンを職員の目に付く場所に掲示し、“あいさつ、感謝の言葉の奨励月間として、広げようあいさつの輪、感謝の心”を規範として意識を共有している。面会簿の個別記入や入室時にノック及び声掛け、入浴は出来る限り同性介助への変更や対応の強化を図り、個人情報保護やプライバシー等共通認識で支援に臨んでいる。	言葉遣いについては、急いでいる際や個人差により食事や排せつ支援等入居者を急がせてしまうような言葉掛けがみられることもあるとして、本人のペースを守る様話し合う時間を持っている。今後も、入居者の尊厳については繰り返しの話し合いに期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの考えを押し付けたり、無理強いせず、選択権はご本人である事を意識して、時には2者選択等の手段を用い、自己決定を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設では職員側の都合を優先したがる傾向に陥る事を認識して、改め、事前に本人の希望を把握した上で、日々の表情や行動で察知する。最適な言葉かけやケアを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後の更衣等、衣類選びは出来るだけご本人と一緒に。好きな色とか把握する機会である事を意識してケアにあたる。体調に問題なければ、化粧品やマニキュア等禁止しない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	トレーごとの片付けは身体機能的に困難である為、湯飲みの片づけをお願いしている。個別の湯飲み等持ち込み活用している。	ご飯と朝食は夜勤者が作り、昼・夜の副菜は法人厨房で調理されたものを提供している。食事量に個人差があり、入居者の状況を見ながらヨーグルトを追加したり、摂取量が不足がちな方には朝のパン食や補助食品等を職員が栄養課に提案し実現させている。入居者が食に関わる機会は少ないが、ピザパーティーや家族とのお好み焼き会等楽しみにつながる工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たとえ時間を要しても、摂取行為は出来るだけご自分で行ってもらう。体重を元に計算し、基礎疾患を考慮して計画的に水分の提供を行っている。摂取量が減少している方には、補助食品等の提案を行い準備してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず歯磨き実践。訪問歯科より口腔ケアへの助言をもらい、活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用して定時的に声掛け誘導を行う。又、そわそわする様子や本人の癖を理解し、排便の性状を確認して、緩下剤の微調整や水分量の調整を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄の間隔を把握し、入居者の状態に応じて見守り・介助を行い、トイレでの排泄を促し出来ることは自身でもしてもらう等自立に向けて支援している。夜間帯もトイレでの排泄や歩行の不安定な入居者はポータブルトイレにて対応し、ポータブルトイレは洗浄・消毒により衛生的に管理している。また、排泄用品も昼・夜と使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行う適度な運動・水分摂取量のチェックを確認しながら、主治医との連携の中で排便コントロールを実施。腹部マッサージや寝たきりでも複数のスタッフにてトランスを行い、便座に座位をとり、排便を試みる等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回の間隔で入浴を支援。午前・午後でも入浴できるスタッフの配置とし、希望に沿って実施。同性介護にも努めている。	入浴は週2～3回を基本として午前・午後どちらでも対応出来る職員体制としている。入浴を拒否される場合には無理強いはいしないものの。その日の気分で午前中は入らないと言われながらも午後の誘いには応じられる等本人の意向を尊重して支援している。同姓介助にも出来る限り対応し、その日のシフト上難しい場合には本人の納得のうえ入ってもらっている。また、安全な入浴となるよう、一人で入浴する方を見守り、時折声を掛けて確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースに合わせて、日中臥床したり、眠剤の服用を一律とせず、ペースに合わせて援助する。室内の照度は細かにコントロールできる設備となったので、微調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時には内服の文献を貼りだしたり、ラインにて写メを共有したり、申し送りノートを活用し、直接看護師にて情報発信を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、出来る家事活動をご本人の能力に合わせて促し、支援している。(カラオケサークル・生け花・洗濯物たたみ・掃除・テーブル拭き)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物希望には、ご家族の同意を得て、買い物同行する。ただ、長距離の歩行が厳しい方もおられ、すべての方には困難。近隣への散歩やドライブ等可能な限り対応している。ご家族の協力を得る場面もあり。	法人への昼・夜の食事の受け取りや、買い物(歯磨き粉や化粧品等)等に職員と一緒に出かけている。家族と受診に出かけ外食をしたり、家族の面会時に散歩と一緒に出かけられる等家族の協力を得ながら外出を支援している。県外の実家への帰省をためADL低下防止に訪問リハを利用し、定期的に家族の協力により外出をされる等自己実現に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得て、預り金あり。レジでの支払いが機械化されており、ご本人単独では困難。必ずスタッフが援助する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけて、ご本人と代わり、直接ご家族とお話ができるよう支援している。手紙は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症が進行している方の割合が高く、創作活動は限られるが、七夕飾りやゴミ箱作り等実施している。季節に合わせた創作活動を行う事で、季節を感じてもらおう工夫している。	隣接に新たに「あそだⅡ」の開設や住宅地の開発によりホーム周辺の景観が一変する様子を窓越しに楽しめる環境となっている。職員は季節の飾りやテーブル席、ソファのレイアウト等行事に応じて検討し、温湿度や換気等入居者が過しやすい共有空間を提供している。昨年春に収穫した庭先の桜の花は、今春の花見の席に桜茶として振る舞われている。歩行器の方が多くなり動線を確保する等入居者の状況を踏まえたレイアウトや、地域住民から提供された竹が七夕飾りとなる等季節感を醸す住環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自由に座る場所を自分で決めて過ごされる。気の合った入居者さま同士で「こっちにおいで」とかの言葉も出る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの物、写真・テレビ等持参いただき、過ごしやすい生活空間になるよう、ご家族にも協力いただいている。	入居に際し説明用の資料をもとに持込みの品を説明し、タンスをクロゼットも備え付けている。自宅で使われていたタンスの持込みや、家族写真やテレビを持込みうるさくないよう小さい音量で見る入居者、花材を家族に依頼し入居者自身が生けた花を皆に見せたいとテレビ横に飾る等入居者の自信回復にも繋げている。入居者の使い勝手や動線を考慮した居室や掃除の行き届いた居室環境としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			annsu	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車椅子での移動に支障がないよう、移動空間にはできるだけ物をおかない様に配慮している。大きな日めくりカレンダーを提示して、年月日や季節がわかるように工夫している。		